

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいりんく糸満			
○保護者評価実施期間	2025 (R7) 年 4月 1日 ～ 2026 (R8) 年 3月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	2人
○従業者評価実施期間	2025 (R7) 年 4月 1日 ～ 2026 (R8) 年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026 (R8) 年 5月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に応じた専門性のある個別支援の提供	児童発達支援管理責任者、保育士、児童指導員、理学療法士等の多職種を配置し、保護者へのアセスメントや日々の情報共有を通じてこどもの特性を把握。職員全員で話し合いを重ねて児童発達支援計画を作成し、計画に沿った専門的な支援を実施している。職員は子どもの気持ちに共感しながら支援を行っている。	今後も多職種連携による専門性の高い支援を継続するとともに、職員のスキルアップのための研修機会を確保し、より質の高い個別支援の提供に努める。
2	活動内容の工夫と通所環境の整備	活動の部屋、静養室など活動に合わせた空間を整備し、整理整頓を心がけ子どもたちが落ち着いて過ごせる環境を整えている。季節に合わせた活動や行事に合わせたおやつ作り、長期休暇時の外出支援など、創作活動・自立支援活動・余暇活動・地域交流の視点で活動内容の工夫に努めている。	引き続き活動内容のバリエーションを広げ、こどもが安心して楽しく通える環境づくりを継続する。バリアフリー化が困難な構造面については、見守りや安全配慮の工夫を一層強化する。
3	保護者との情報共有・連携体制と個人情報管理	連絡帳の活用や送迎時の情報共有、アプリを使った情報伝達、ホームページ・ブログでの発信等により、こどもの健康や発達の状況について保護者と共通理解を図っている。個人情報については誓約書・鍵付き書庫・パスワード設定等により厳重に管理している。	今後も情報伝達ツールを活用し、保護者との連携をより緊密にする。個人情報の取扱いについて職員研修を継続的に実施し、適切な管理体制を維持する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所・認定こども園・幼稚園等及び地域のこどもとの交流機会の拡大	プログラムとして保育所や認定こども園、幼稚園等との交流はなく、地域のこどもとの交流が外出時の二次的なものにとどまっている。インクルージョン推進の観点から交流の場が十分に確保できていない。	保育所等訪問支援や併行利用の機会を活用し、保育所・認定こども園・幼稚園等との計画的な交流機会を設ける。地域の行事への参加など、地域のこどもと積極的に関わる機会を企画する。
2	定期的な面談・子育てに関する助言機会の確保	保護者面談は要望があった際に実施しており、定期的に面談や子育てに関する助言を行う機会が設けられていない。	年に複数回の定期面談を計画的に実施できるよう体制を整え、保護者と継続的に子育てに関する情報共有や助言の機会を確保する。
3	保護者同士・きょうだい同士の交流機会の充実	年1～2回の保護者会を開催しているが、保護者同士やきょうだい同士の交流の機会が限定的であり、家族支援としての場が十分に確保できていない。	保護者会の開催回数の増加や、きょうだい向けイベントの企画を検討する。家族同士が交流できる場を計画的に設け、家族支援の充実を図る。